

# 山梨縣立甲府中學校校歌

三井 甲之 作詞  
東京高等音樂學院 作曲

一、我等は日本に生まれたり

神の御代より一系の

皇統戴く我國に

生まれしことのうれしきよ

皇國の榮えは天地と

共に窮りなかるべし

二、大和島根に山めぐる

甲斐の國あり水清き

郷土の歴史顧みよ

我等の務め輕からず

見よや南に富士ヶ嶺は

皇國の鎮めと聳えたり

三、大海原の揺りやまぬ

波をも風をも凌ぎつつ

護れ皇國を諸共に

國民舉りて國のため

撓まず萎縮まず辟易がず

進むぞ大和ごころなる

# 山梨県立甲府第一高等学校校歌

昭和23年10月22日制定

上条 馨 作詞

小松 清 作曲

一、甲斐の國 み中に建ちて

古へゆ 雄心伝へ

新しき 世の鑑とし

勉めてむ この学舎に

二、日に新た また日に新た

弥高き のぞみをもちて

真なる 理究め

励みなむ 若人我等

三、聳え立つ 芙蓉の高根

清き哉 甲斐の山川

もろともに 玉と磨きて

賛くべし 天地の化育

## 伝えよう いにしえの心 あたらしき智慧

このテーマは、現在日本を揺るがせている東日本大震災による被害を検証する様々な報道に触れる中で生まれた。「想定外」＝想像し、予定していた以外あるいは、以上のこと。

今回の甚大な被害を生んでしまった人間の思考の限界や誤りをそう呼んでいる。

そして検証報道の多くは、「本当に予想しえなかった災害規模であったのか?」「本当に予想しえなかった被害であったのか?」という問いかけから始まっていた。

はたして、その問いかけの答えは? 残念ながら、その答えは「否」。過去にすでに同様規模の地震や津波は起きて

いた。そして、その規模の地震や津波が起きれば、引き起こされる被害の甚大さも当然のことながら、「想定内」の

可能性が高いということであった。

何がそれらを「想定外」にしていたのか? それは事実や記録、その事象に立ち向かった人々の切実な想いが、結

果として後世に正確に伝えられなかったこと、教えられていなかったことから生じていると指摘していた。そして、

そのような未曾有の事態に立ち向かうには、智慧の積み重ね、新たな智慧の結集が必要であることも指摘していた。

このような視座は、その眼や想いを災害という分野に留まらず、広く日本社会全体、引いては世界にまで向ける時、

あらゆる分野において、必要不可欠な視座であると確信する。

すでに、わが母校甲府第一高校の校歌の中では「いにしえゆ、おごころ伝え」「新しき世の鑑」として示されている。

ここに先人の歌詞にこめられた想いに深く共感し、その慧眼に敬意を表すると同時に、改めて甲府中学・甲府第一

高校東京同窓会の今年度の結集テーマとして掲げたいと思う。

真言宗 智山派 厄除地藏尊 塩澤寺

住職 佐藤 光政

(昭和四十九年卒)